

定期作況報告

平成15年6月
(6月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

5月下旬：最高気温は平年に比べて極めて高く、最低気温は平年並、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より極めて少なかった（平年比5％）。日照時間は平年並であった（平年比125％）。

6月上旬：最高気温は平年に比べて極めて高く、最低気温はやや低く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年並であった（平年比68％）。日照時間は平年より多かった（平年比185％）。

6月中旬：最高気温・平均気温は平年に比べて極めて高く、最低気温はやや高かった。降水量は平年並であった（平年比75％）。日照時間は平年並であった（平年比122％）。

以上のことから、この1か月間（5月下旬～6月中旬）は平年と比較して、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

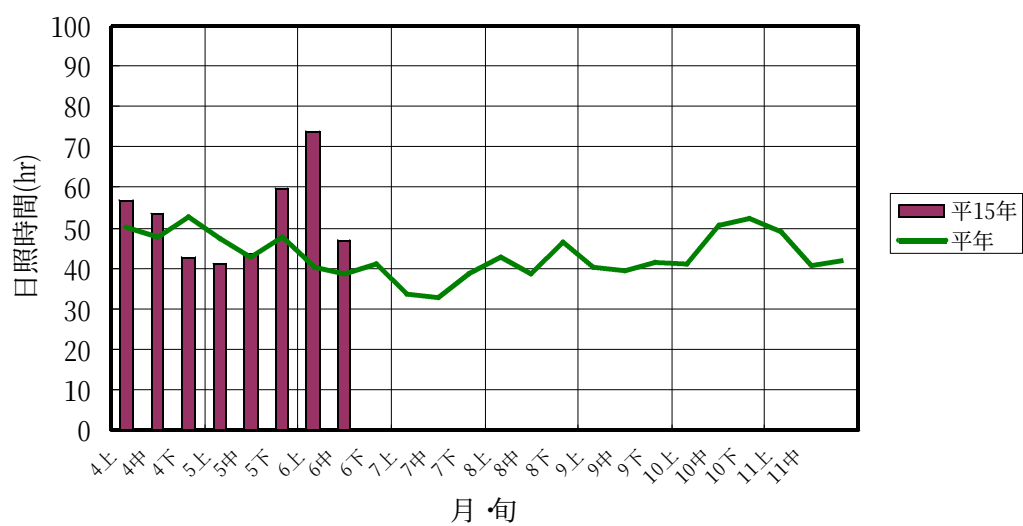
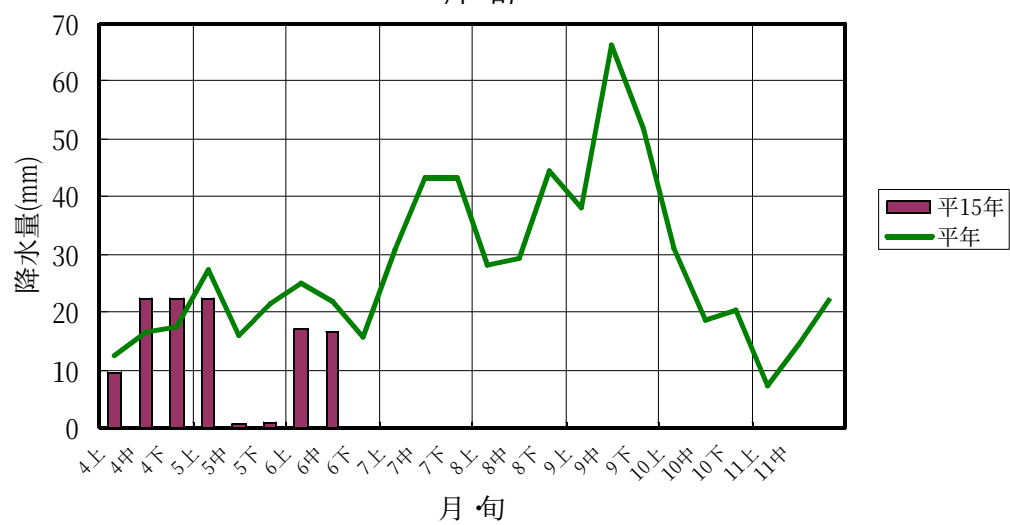
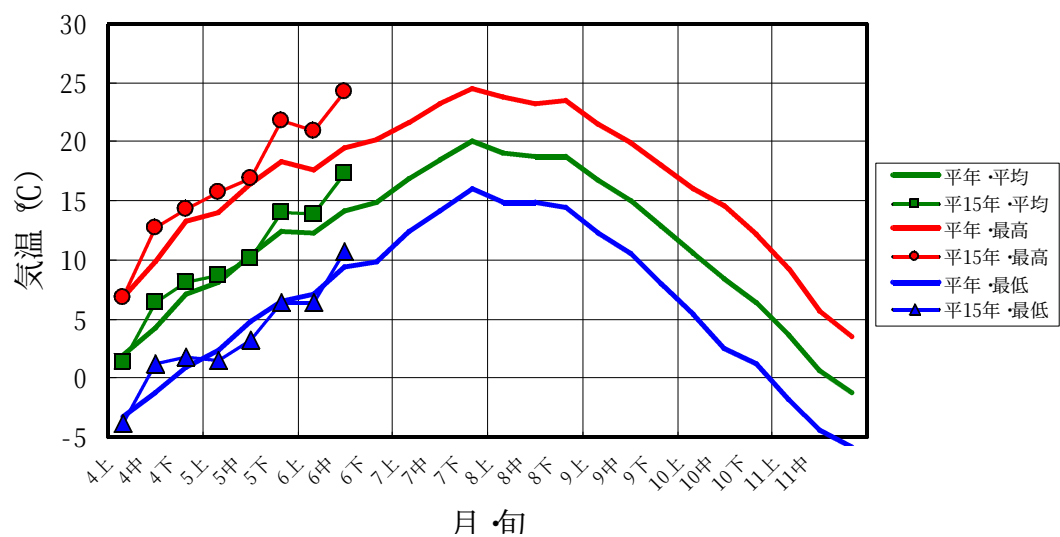
注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

気 象 表

項 目 月 旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
5月下旬	14.0	12.4	1.6	21.7	18.3	3.4	6.4	6.6	△ 0.2
6月上旬	13.9	12.3	1.6	20.9	17.7	3.2	6.4	7.1	△ 0.7
6月中旬	17.3	14.2	3.1	24.2	19.5	4.7	10.8	9.3	1.5
平 均	15.1	12.9	2.2	22.3	18.5	3.8	7.9	7.7	0.2

項 目 月 旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
5月下旬	1.0	21.4	△20.4	59.8	47.8	12.0
6月上旬	17.0	24.9	△ 7.9	74.0	40.1	33.9
6月中旬	16.5	21.9	△ 5.4	46.9	38.6	8.3
合 計	34.5	68.2	△33.7	180.7	126.5	54.2

注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。
2）平年値は前10か年間の平均である。



２．当場の作況^{注)}

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

１) 秋まき小麦 作 況：やや良

事 由：５月下旬以降、気温は高めに推移し、５月下旬の降水量はかなり少なく、その後の降水量も少なかったが６月１日と１４日にまとまった降雨があり、生育は順調で少雨による影響はなかったものと思われる。このため出穂期は、平年より３日程度早く、生育は徒長気味であるが草丈、茎数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況はやや良である。

品 種 名	出穂期（月．日）			草 丈（cm）			茎 数（本/㎡）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タクネコムギ	6. 4	6. 6	△ 2	109.2	102.4	6.8	1043	891	152
ホクシン	6. 8	6.13	△ 5	100.0	91.9	8.1	884	785	99
チホクコムギ	6.12	6.15	△ 3	92.6	89.8	2.8	893	762	131
ホロシリコムギ	6.12	6.12	0	103.3	98.8	4.5	903	723	180

注) 平年値は前７か年中、「タクネコムギ」は平成１２年、１４年を、「ホクシン」は平成１０年、１４年を、「チホクコムギ」は平成８年、１４年を、「ホロシリコムギ」は平成８年、１２年をそれぞれ除く５か年の平均。「ホクシン」の播種量は２５５粒/㎡、その他の品種の播種量は３４０粒/㎡。

２) 春まき大麦（二条大麦） 作 況：やや良

事 由：５月下旬以降の気象条件は、平年に比べると気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。このため、圃場は乾燥ぎみに経過したものの、作物に対する影響は少なく、生育は順調である。草丈・葉数は平年並であるが、茎数は平年より多い。

以上のことから、目下の作況はやや良である。

品 種 名	草 丈（cm）			葉 数（枚）			茎 数（本/㎡）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	42.4	43.1	△0.7	7.7	7.6	0.1	1151	968	183

注) 平年値は前７か年中、平成９年、１２年を除く５か年の平均。

3) 春まき小麦 作 況：やや不良

事 由：5月下旬以降、気温は平年より高く、降水量が少なかったため干ばつの影響を受け、茎数は平年の79%と少なく、このまま推移すれば穂数は、平年を下回るものと予想される。生育は平年よりやや進んでおり、草丈は平年並である。

以上のことから、目下の作況はやや不良である。

品 種 名	出芽期（月．日）			草 丈（cm）			茎 数（本/m ² ）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	5. 6	5. 9	△ 3	60.1	60.1	0	566	721	△155

注）平年値は前7か年中、平成9年、11年を除く5か年の平均。

4) とうもろこし 作 況：やや良

事 由：播種期は平年より2日早かったが、播種期前後の降水不足により発芽がやや遅れ、出芽期は平年並であった。その後は高温、多照に経過したことから、平年に比べて草丈がやや高く、葉数も多い。

以上のことから、目下の作況はやや良である。

品 種 名	播種期（月．日）			出芽期（月．日）			草 丈（cm）			出葉数（枚）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ディアHT	5.16	5.18	△ 2	5.30	5.30	0	31.5	26.1	5.4	5.7	3.7	2.0

注）平年値は前5か年の平均（平成10年に供試品種を変更したため）。

5) 大 豆 作 況：やや良

事 由：平年より2日早い5月22日に播種を行った。播種後、気温は高く推移したが降水量は少なかった。出芽は平年より1～2日早い程度であり、播種から出芽期まで日数は平年並であった。出芽後の高温、多照により生育は順調で、主茎長、本葉数ともに平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況はやや良である。

6) 小 豆 作 況：やや良

事 由：平年より2日早い5月22日に播種を行った。播種後、気温は高く推移したが降水量は少なかった。出芽は平年より1～3日早い程度であり、播種から出芽期までの日数は平年並であった。出芽後の高温、多照により生育は順調で、主茎長は平年より高く、本葉数も平年並～上回っている。

以上のことから、目下の作況はやや良である。

7) 菜 豆 作 況：やや良

事 由：平年より3日早い5月22日に播種を行った。播種後、降水量は少なかったが、気温が高く推移したために出芽は平年より3～6日早く、播種から出芽期までの日数は平年並～やや短かった。出芽後の高温により生育は順調で、主茎長、本葉数ともに平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況はやや良である。

種類	品 種 名	播種期（月・日）			出芽期（月・日）			主茎長（cm）			本葉数（枚）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	トヨコマチ	5.22	5.24	△2	6. 7	6. 8	△1	11.7	8.7	3.0	1.2	0.7	0.5
	トヨホマレ	5.22	5.24	△2	6. 6	6. 8	△2	9.8	6.2	3.6	1.1	0.6	0.5
小豆	エリモショウズ	5.22	5.24	△2	6.11	6.12	△1	4.5	3.0	1.5	0.4	0.3	0.1
	サロショウズ	5.22	5.24	△2	6. 9	6.12	△3	4.1	2.9	1.2	0.8	0.3	0.5
菜豆	大正金時	5.22	5.25	△3	6. 6	6.12	△6	11.4	7.2	4.2	1.2	0.3	0.9
	雪手亡	5.22	5.25	△3	6. 7	6.10	△3	6.5	5.2	1.3	1.2	0.4	0.8
	福勝	5.22	5.25	△3	6. 9	6.12	△3	8.8	7.6	1.2	0.9	0.5	0.4

注）平年値は、大豆は前7か年中平成10年、12年を除く5か年、小豆は前8か年中平成10年、14年および試験を中止した12年を除く5か年、菜豆は前8か年中平成11年、13年および再播した10年を除く5か年の平均。

8) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：植え付けは平年並の5月12日に行った。植え付け後の気温は平年よりやや高く推移したが、降水量が少なかったため、萌芽期はほぼ平年並であった。萌芽期後の降水量も平年よりやや少なく推移したため生育の遅延が心配されたが、茎長はほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は平年並である。

品 種 名	植付期（月・日）			萌芽期（月・日）			茎長（cm）			茎数（本/株）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男 爵 薯 コナフブキ	5.12	5.13	△1	6.01	6.02	△1	14.3	14.9	△0.6	2.9	3.3	△0.4
	5.12	5.12	0	6.04	6.03	1	12.9	14.0	△1.1	2.6	2.7	△0.1

注）平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成9年、14年を、「コナフブキ」は平成9年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

9) てんさい 作 況：やや良

事 由：5月下旬からの1か月間は、平年に比べて平均気温が約2℃高く、日照時間が約40%多かった。さらにこの期間中に適度な降雨があったため、地上部、地下部ともに生育は平年をやや上回っている。

以上のことから、目下の作況はやや良である。

栽培法	品種名	草丈 (cm)			葉数(枚)			根周(cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ ストーク	26.6	24.2	2.4	12.4	12.4	0	8.4	7.2	1.2
		27.5	25.3	2.2	10.7	12.0	△1.3	8.0	7.2	0.8
直播	モノホマレ	16.8	13.4	3.4	7.6	6.8	0.8	-	-	-

栽培法	品種名	茎葉重 (g／個体)			根重 (g／個体)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ ストーク	110	91	19	20.3	17.4	2.9
		118	114	4	17.3	15.3	2.0
直播	モノホマレ	22	11	11	1.9	1.1	0.8

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成10年、14年を、「ストーク」は平成10年、13年を、直播は平成10年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

10) 牧 草 作 況：不良

事 由：チモシー混播・単播草地の出穂始・出穂期および混播草地のアカクローバの開花始は平年より1～6日早かった。両草地の1番草は、草丈が平年より低く、乾物率が平年よりやや高く、乾物収量が平年より少なかった。混播草地のマメ科率は平年よりやや低かった。乾物収量が平年より少なかったのは、5月中旬～6月中旬の降水量が平年比約40%と少なかったことにより、チモシー・アカクローバ双方の生育が抑制されたためと考えられる。

以上のことから、目下の作況は不良である。

草地	草種	出穂始			出穂期			開花始		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	チモシー	6.12	6.14	△2	6.17	6.18	△1	—	—	—
	アカクロバ	—	—	—	—	—	—	6.13	6.19	△6
単播	チモシー	6.12	6.15	△3	6.16	6.20	△4	—	—	—

草地	番草	草種	草丈 (cm)			マメ科率 (%)			乾物率 (%)		
			本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	1 番草	チモシー アカクロバ	87	97	△10	60.9	65.3	△4.4	20.6	17.8	2.8
			72	79	△7						
単播	1 番草	チモシー	83	95	△12	—	—	—	26.0	23.7	2.3

草地	番草	生草収量 (kg/10a)				乾物収量 (kg/10a)			
		本年	平年	比較	平年比 (%)	本年	平年	比較	平年比 (%)
混播	1 番草	2456	3610	△1154	68	500	627	△127	80
単播	1 番草	1472	1751	△279	84	382	413	△31	92

- 注) 1. 1 番草の収穫日は 6 月 18 日である。
2. 各草種の品種はチモシーが「ノサップ」、アカクロバが「サッポロ」である。
3. 混播草地の乾物率は、チモシーとアカクロバを併せた全体についてのものである。
4. 平年値は前 7 か年中、混播草地では平成 8 年と 11 年を、単播草地では 8 年と 14 年をそれぞれ除く 5 か年の平均。

1 1) たまねぎ 作 況：良

事 由：本年度から、生育の思わしくなかった固定ほ場（火山性土）から水田跡地ほ場（灰色低地土）に作況ほ場を移動した。移植後の干ばつのため苗の活着はやや遅れ、日照および気温は平年並に経過したものの、少雨によりその後の生育はやや停滞した。6 月上旬のまとまった降雨により生育は

回復し、6月中旬以降の適宜灌水により、現在の生育は、草丈、葉数、葉鞘径とも平年を上回っている。ただし、平年値は従来の固定ほ場の成績であるため参考扱いとする。

以上のことから、目下の作況は良である。

品 種 名	草 丈 (cm)			葉 数 (枚)			葉 鞘 径 (mm)		
	本年	平年 ^{注)}	比較	本年	平年 ^{注)}	比較	本年	平年 ^{注)}	比較
スーパー北もみじ	27.5	21.6	5.9	4.8	3.7	1.1	7.2	5.9	1.3
北もみじ	30.1	20.6	9.5	4.4	3.2	1.2	6.9	5.8	1.1
改良オホーツク1号	29.8	23.9	5.9	4.6	3.8	0.8	8.0	6.5	1.5

注) 平年値は固定ほ場（火山性土）の成績であり「参考扱い」とする。前7か年中、「スーパー北もみじ」は平成12年、13年を、「北もみじ」および「改良オホーツク1号」は平成10年、12年をそれぞれ除く5か年の平均。